



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

## 目次

校内研修支援のひろば	1
学力を高める授業のポイント（教科教育部）	2
研修講座から	3
今年度の生徒実習から	3
「春休み課題帳」をご活用ください	4

## 校内研修支援のひろば

特別支援教育の推進と授業のユニバーサルデザインについての校内研修支援です

### <研修内容等>

#### 1 特別支援教育を推進する

- ・障がいのある子の理解と支援

#### 2 授業のユニバーサルデザイン化について

- ・ユニバーサルデザイン化とはどういったことか。
- ・環境におけるユニバーサルデザイン化

小学校での校内研修支援  
(平成28年8月実施 90分)

- ・授業におけるユニバーサルデザイン化
- ・「焦点化・視覚化・共有化」の具体例
- 3 校内でのユニバーサルデザイン化の見直しと目標設定
- ・ユニバーサルデザイン化の演習

### 当日の資料から

#### 授業のユニバーサルデザイン

その子にとって必要な支援 + ほかの子にじゃまにならない

絵や図などを使う ~~絵や図などを使う~~

合理的配慮＝個別の支援

#### 「全員にわかる・できる授業」の工夫の例

##### ②国語の授業

T:教科書を読む。もう1回読む。 読みの苦手な子への配慮

T:「とる」の意味を班のみんなで考えてみよう 話す活動

T:発表してください。 聞く活動

T:動作でやってみよう 言葉だけではイメージすることが苦手な子への配慮

#### 授業のユニバーサルデザイン化を進める中で、気をつけたこと

自分の教室で、今必要なものを吟味していく

必要なくなったもの(視覚支援など)は外していく  
本当に、今必要なものを整えていく

わかりやすいことは大切だが、教科のねらいを達成できないような、授業自体のレベルを下げることはないよう気をつける

「学級の実態」「教科の特性」「授業のねらい」において、今必要なものを焦点化し取り組む

#### <全校での取組につながった例>

学習環境12

「授業の流れ」や「活動の手順とゴール」を示し、見出しがもてるようにしている

教室環境7 伝え方17

「子どもに必要な情報が分かりやすく提示されている」

### <受講した先生方の声>

- ・まずは、様々な環境を整えていこうと思いました。教室環境・学習環境を中心にして、家庭へも広げていけたらと思いました。
- ・「学級の実態」「教科の特性」「授業のねらい」を大事にして、焦点化に取り組むという点が参考になりました。
- ・日々の授業、学校生活でクラスの実態に合わせてユニバーサルデザインを取り入れていきたいと思っています。
- ・場の構造化、時間の構造化、ルールの明確化、視覚化といった視点で教室環境・校内環境を見直し、できることから改善を図って行きたいと思っています。

# 学力を高める授業のポイント④

## 技術・家庭編

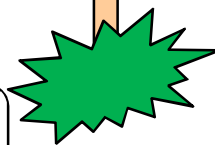


トモニ先生

ミガコ先生、生徒が製作や実習の振り返りを書くときに、どのような声掛けをしていますか。

私は、「今日の授業の振り返りを具体的に記入しましょう」と声掛けをしているわ。

僕も同じです。生徒に自分の言葉で追究の過程について振り返ってほしいと思っているのですが、なかなかそうならないのです。



ミガコ先生

そう言われてみれば、私の授業の振り返りでも、「〇〇ができてよかった」や「がんばった」などの記述だけで終わってしまう生徒が何人もいて、今日の実習で、本当に生徒に力がついたかどうか不安になることがあるわ。



つなぐ先生

ところでお二人は、追究の場面では、生徒にどのような声掛けをしていますか。

活動が停滞している生徒に、やることを指示することが多いかな。



私は、質問に答えていることが多いです。あとは、「どうしてそう考えたの」「なるほど、だからそう考えたのだね」と問い返したり、認めたりするようにしています。



「どうしてそう考えたの」「なるほど、だからそう考えたのだね」という声掛け、とてもいいですね。これは、生徒が追究の過程を見返し、自分の考えを整理することにつながります。生徒は考えたことやしたことについて、つまり、そうすることの意味や価値について確かめられるのです。



なるほど。追究の中で、教師とこのやりとりがあれば、生徒は自分の考えたことやしたことよさについて自覚することができますね。だからこそ、そのよさが生徒の振り返りの言葉の中に表れてくるのですね。

そうか。振り返りの場面で、その言葉を生徒が発表したり、その言葉を生かしながら教師が板書し整理したりするのは、体験したことを基に、追究のよさを共有したり、他の生徒の追究をなぞったりするためなのですね。



生徒は、本時の追究がどこに向かっているのかが明確になっていると、安心して学ぶことができ、さらに学びの道筋がはっきりと残るため、自分の言葉でその時間の授業を振り返ることができるのです。

## 研修講座から

### 「宇宙を活用した授業づくり」～宇宙の素材で子どもの心に火をつける～（11月19日）

この講座は、宇宙の素材を導入場面等で活用することを通して、理科だけでなく社会や国語、総合的な学習の時間などあらゆる分野で「子どもの心に火をつける」魅力的な授業をつくることを学ぶことを目的として開設されました。また、土曜講座として実施しました。

＜講座の主な内容＞

講義「宇宙を活用した授業づくり

実習「宇宙の素材を体験しよう①②」

JAXA宇宙教育センター 室町 篤

実践発表「小中学校における宇宙教育の実践発表」

総合教育センター 専門主事 林 健司

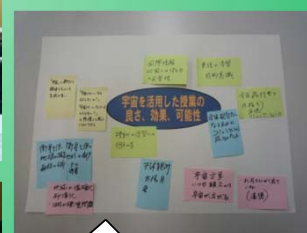
演習「宇宙の素材を活用した授業を構想しよう」

#### ◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・「子どもたちの興味や関心が、さらに高まりそうな教材や素材を得ることができた。」
- ・「身近なことは宇宙とつながっていると分かり、自信をもって考えたり実践したりしていけそうだ。」
- ・「JAXAが教育に関わって、いろいろな情報を提供・活動していること、実践例を多く知ることが最大の成果と感じました。」
- ・「宇宙を切り口に授業がつくれそうだと感じた。」
- ・「今学期中に教科、特活で早速やってみます。」
- ・「職員会の場を通して、教科書の内容をさらにふくらめていく柔軟な授業のあり方を研修報告等で広めていきたい。」



講義の様子



授業構想の演習から



宇宙食（カレー）の食べ比べ実習

## 今年度の生徒実習から



生徒実習は、県立高等学校の生徒を対象として、学校での対応が困難な教材や最先端機器を用いた学習の場を提供し、体験を伴う実習を通して、生徒の学習意欲や学力の向上などの学習効果を高めることを目的としています。

本年度は、延べ数で高等学校30校、72学級で2,000名以上のお申し込みを頂き、組換えDNA実験、電子顕微鏡の取り扱いと観察、ロボットカー、射出成型技術、産業用ロボット、Web実践システムでの取引演習・簿記学習、アパレルCAD、マルチメディア活用等、各校の要望により実習を行いました。

#### ◆◆◆実習した生徒の感想から◆◆◆

- ・自分たちの肉眼では決して見ることが出来ない世界をたくさん見ることが出来て良かったです。また、電子顕微鏡が現在の科学や医療にどのように応用されているかなども学ぶことが出来て良かったです。
- ・自動運転自動車の技術について勉強になったことが沢山ありました。自動化の技術は、よい点と問題点があり、このことに向き合わないといけないと思いました。
- ・私は税理士を目指しています。今やっている簿記の勉強は今後の自分の人生にも役立つので、今日やったことも含めて次に生かしていきたいと思います。
- ・学校では普段やらないので、最初難しくて大変でしたが、完成できて良かったです。自分のデザインが、作成したパターンに反映された時は感動しました。

